

施策と主な事業を紹介!

第1回市議会定例会の冒頭で、安田市長が平成21年度の施政方針を表明しました。今回、施政方針の概要を6つの重点事項ごとに分けて紹介します。また、併せて主な事業とその予算額についてもお知らせします。
※金額は万円未満を四捨五入

1 豊かな産業づくり

現在の厳しい経済状況の中で、新たな雇用を創出する大きな柱は、農林水産業であると考えています。将来に夢を持って働くことができる、活力ある天草市を築いていくため、農林水産業をはじめ各種産業の振興に努めるとともに、厳しい状況ですが、企業誘致などにも積極的に取り組んでいきます。

農業については、優れた農産品を天草ブランドとして全国展開を行い、生産・流通の拡大を図る一方、多品目の農産物は地産地消を推進し、消

費拡大を進めることにより、農家経営の安定、所得の向上を図ることが極めて重要です。すでに全国的な流通が展開されている、デコポンをはじめとした柑橘類に加え、天草緑竹、マンゴーなどを、物産展などを通じてPRを行い、市場の開拓とブランド化を推進していきます。

地産地消については、「あまくさ型地産地消推進事業」により、消費者、農家、農協などによる協議会を設置し、検討を進めるほか、市内小・中学校の児童・生徒を対象に



▲神戸空港で実施した天草観光物産展

した農業体験や料理体験などを通じて、地元農産品の安心・安全などの啓発活動を行う「あまくさ型地産地消体験活動推進事業」を新たに実施します。

農業生産の基礎となる基盤整備については、ほ場整備を計画的に実施するほか、施設

園芸の推進、用・排水路や農道などの維持管理を支援していきます。
また、農作物に甚大な被害をおよぼしているイノシシの対策については、有害鳥獣捕獲報償金と防護柵設置補助金を引き上げ、これまで以上に被害防止と捕獲活動を積極的に支援していきます。

都市と農村の交流については、交流人口の拡大による地域活性化を目指して取り組んでおり、短期・中期滞在型の体験ツアーを実施するほか、空き家バンクを充実させ、U・J・Iターン希望者への情報提供を積極的に行っていきます。

林業については、水資源のかん養や地球温暖化対策などの公益的機能の充実を図るとともに、林業経営者の生産や販売の安定に寄与するため、生産性の向上と天草産材の需要拡大を図っていきます。
水産業については、水産資源の回復を図るため、県や漁協と連携し、マダイ、ヒラメ

- 有害鳥獣捕獲対策事業（鳥獣による農林生産物被害などの防止のため、捕獲報償金、箱わな購入や防護柵設置費用の補助等を行う）……………6,095万円
- マグロ稚魚（ヨコワ）採取試験操業事業（マグロ養殖の種苗供給のため、ヨコワ採取の試験操業を実施する）……480万円
- 天草ブランド策定事業（「天草観光物産展」や「天草ブランド商談会」の開催、並びに天草産商品のPRを行う）……………344万円
- あまくさ型地産地消推進事業（農産物などを地産地消の観点で推進するための、あまくさ型地産地消推進協議会〔仮称〕の運営費を助成する）……………150万円

などの種苗放流を推進し、資源管理による持続可能な漁業の推進に努めるほか、魚類養殖業では、漁場環境の保全、赤潮対策や魚病対策を講じるとともに、本市の産業振興の起爆剤として期待が寄せられています。マグロ養殖についても、支援を行っていきます。
水産基盤の整備については、国の「漁港漁場整備長期計画」に基づき、漁港整備を

実施するとともに、高潮や老朽化などで機能低下が進行している漁港海岸の海岸保全施設の機能強化を図っていきます。

商工業については、まずは、雇用不安を抱えている市民の皆様に対して、緊急雇用対策事業などを積極的に実施するとともに、経済関係の機関・団体と連携した地場企業の支

援、ターゲットを絞った企業誘致に、なお一層取り組み、雇用の場の創出に努めていきます。

また、平成23年春の九州新幹線全線開業を見据え、沿線主要都市での「天草観光物産展」や商談会を開催し、天草ブランドの確立と新たな顧客の確保、販路開拓を進めていきます。

2 魅力ある観光地づくり

地域経済の活性化や雇用の場の創出など、観光はすそ野の広い総合産業であり、天草をさらに魅力ある観光地としていくことは、きわめて重要であります。

観光地が広域的に連携し、国内外の観光客が2泊3日以上滞在できるエリアの整備と形成を旨とし、昨年7月「観光圏整備法」が施行されましたが、天草市では、天草地域と雲仙・高原地域を観光圏とする「雲仙天草観光圏整備計

画」を関係市町で策定し、取り組んでいくこととしています。

また、天草の魅力ある観光資源を広く紹介し、観光客の拡大を図るため、「社団法人天草宝島観光協会」と連携を取り、戦略的に観光キャンペーンを展開していきます。特に、現在建設中の「天草キリシタン館」は、文化施設としてだけではなく、観光面でも中核となる施設であり、平成22年4月の開館に向けて、P

Rを行っていきます。

さらに、日本で最初に海中公園の指定を受けた「牛深海中公園」は、本市の重要な観光資源です。運行休止となっていますが、「牛深海中公園」のグラスボートについては、運行再開への支援を行うとともに、平成23年春の九州新幹線全線開業に向けて、鹿児島から牛深地域への交通アクセス連携の調査を行っていきます。

- 本渡中央北地区まちづくり交付金事業（天草ほんどの観光拠点地域として、天草キリシタン館などの施設と連携する公園や街路等を一体的に整備し魅力の向上を図るとともに、観光ボランティアの育成、歴史や文化伝統を学び発信する観光拠点の創出により交流人口を増加させ、地域の活性化を図る）……………4億4,300万円
- ふれあいランドスポーツ振興事業（ふれあいランド〔新和〕などをスポーツ合宿用に改修し、合宿の誘致の拠点として活用し、地域コミュニティの振興と交流人口による地域活性化を図る）……………2,661万円
- 出水～天草間交通アクセス調査事業（九州新幹線全線開業に備えて、天草への観光客の増加を図るため、交通アクセスや観光ルート開発に向けた調査を実施する）……………441万円
- 「宝の海・夕陽」日本一づくり事業（牛深・天草・河浦において、天草を代表とする美しい「夕陽」の景観づくりに取り組むため、計画づくりワークショップを開催し事業全体の計画を策定する）……………351万円

3 快適な生活環境づくり

住みよい環境、健康で生きがいを持ち、ゆとりと潤いのある生活、私たちが心豊かに生活するうえで基本となる、快適な生活環境づくりを推進するため、次のような施策を展開していきます。

まず、公共交通対策については、市民の皆様が生活、福祉向上のため、利便性の高い

公共交通機関の確保や整備が必要で、中でも路線バスは、年々利用者が減少し、市の負担も増加している状況から、平成20年度に天草市地域公共交通連携協議会を設置し、再編計画を策定しました。この計画に基づき、平成21年度から3年間で再編に取り組みしていきますが、市民の交通手段

として、利便性の高い公共交通の維持に努めていきたいと考えています。

水道事業については、窓口・徴収業務などを民間に委託し、市民サービスを維持しながら、水道事業の経営効率化を図ります。水道施設などの整備については、安全で上質な水の安定的供給を図るため、計画的な施設の更新と、水道普及地域の解消に向けた計画的な事業着手、早期完